MUSASHINO for TOMORROW

Vol.113

巻　頭

音楽で自由を獲得しよう

ジャン＝マルク・ルイサダ（ピアニスト）

海外音楽事情

ドイツの教会音楽家

～音楽を通して社会に貢献できること～

草谷麻子（オルガニスト）

表紙：オーティス・マーフィー
（サクソフォーン）

April 2015
vol.113

平成27年度を迎えるにあたって

武蔵野音楽大学学長　同附属高等学校校長　福井直敬

各地で猛威を振るった厳しい寒さも去り、春爛漫の季節を迎えました。

まだ時間的に余裕があると考えておりました教育研究環境の刷新を目指す「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」による建設工事が、いよいよ着工の運びとなり、この4月からベートーヴェンホールを除く江古田キャンパス内全校舎の解体作業が始まります。

去る3月13日「現校舎とのお別れの会」を開催し、この校舎で学び育った、また、勤務をした多くの教職員・卒業生・学生たちが集い、間もなく取りこわされる校舎との別れを惜しみました。60年近くにわたり馴れ親しんできた現校舎との惜別の念は誠に大なるものがありますが、一方、2年後に誕生するユニークな都市型キャンパス誕生への夢も膨らみ、懇談はいつまでも続きました。

平成29年初春の新校舎完成まで、大学附属江古田音楽教室を残して、大学の機能は入間キャンパスへ移ることになります。その間、関係者の皆様、教職員・学生の皆様にはご不便をおかけすることもあるかと思いますが、何とぞご理解をいただきますようお願い申し上げます。

工事の進行状況は本誌上で順次お知らせしてまいりますので、ご高覧ください。

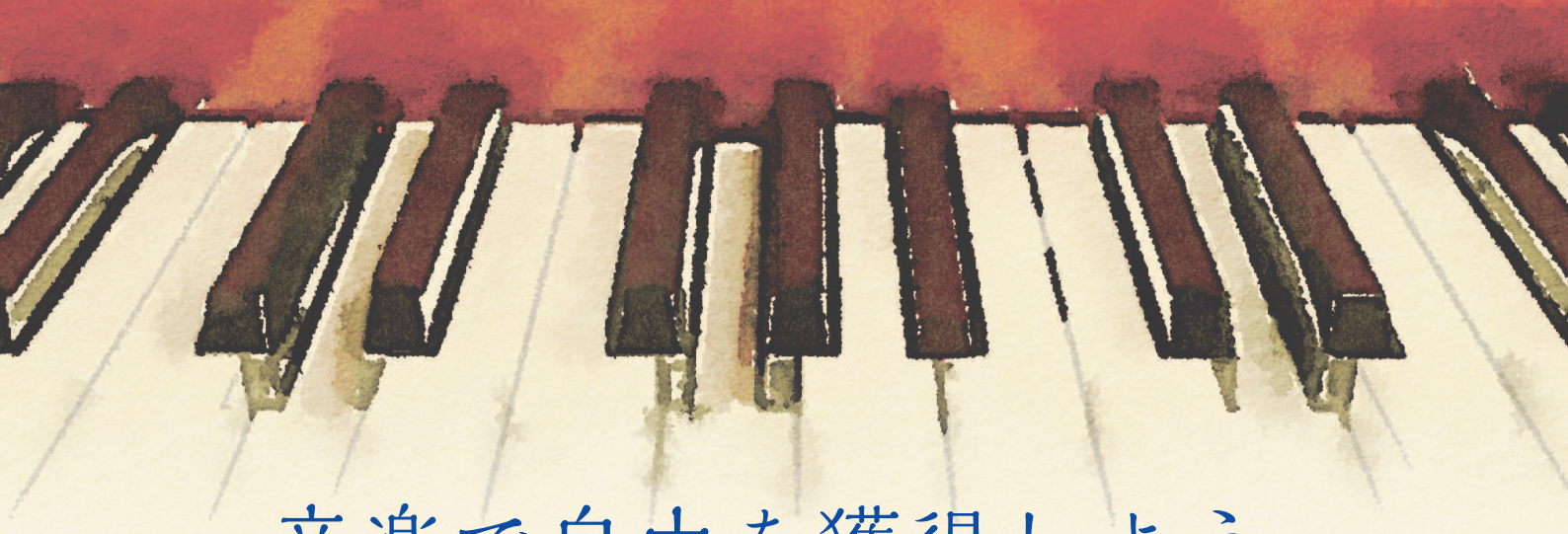
＊　　＊　　＊

一方、春の訪れと共に若草萌える入間キャンパスでは、新入生諸君を迎え、全学年揃って賑やかに平成27年度の学事が始まろうとしています。

これまで全学挙げて江古田キャンパスからの移転作業を行ってまいりましたが、準備万端整い授業開始を待つばかりとなりました。併せて、企画部の新設を主とする事務組織の大幅な改編を行いました。これにより事務能力の一層の能率化、合理化が図れるものと期待をしております。

教職員一同、新学年度もまた、教育研究成果の向上に一層の努力を傾注する決意でおりますので、皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

武蔵野音楽大学　入間キャンパスの春



音楽で自由を獲得しよう

●ジャン＝マルク・ルイサダ（ピアニスト）●

ジャン＝マルク・ルイサダ
Jean-Marc Luisada

ショパンを中心にロマン派や近代フランス音楽を得意とする、現代フランスを代表するピアニスト。6歳よりM.シャンピとD.リヴィエールにパリで、その後英国のメニューイン音楽学校で学ぶ。16歳でパリ国立高等音楽院に入学、ピアノをD.メルレに、室内楽をG.ジョワ＝デュティユーに師事（両課程でプルミエ・プリを獲得）。また、N.マガロフ、P.バドゥラ＝スコダ、M.マギンらの元でも研鑽を積んだ。1985年ショパン国際ピアノコンクール5位、併せて国際批評家賞を受賞、以降世界中の主要なホールや音楽祭に出演。録音も多く、ショパン《ワルツ》《マズルカ》（DG）、ビゼー＆フォーレ（RCA、年間ディスク大賞受賞）、ショパン《舟歌＆幻想ポロネーズ》（同、レコード芸術誌特選盤）等、常に高い評価を受けている。大の映画好きとしても知られ、俳優との共演企画にも取り組んでいる。2005年NHKスーパーピアノレッスン「ショパン編」に講師として出演。1989年「芸術文化シュヴァイエ勲章」、1999年「国家功労5等勲章」、2003年「芸術文化オフィシエ勲章」をフランス政府より授与される。

ショパンをこよなく愛する世界的ピアニスト、ジャン＝マルク・ルイサダ氏。1985年のショパン国際ピアノ・コンクールで注目を浴びて以後、ソロ、室内楽、オーケストラとの共演など世界中を舞台に幅広く活躍しています。日本では、2005年に『NHKスーパーピアノレッスン　ショパン編』に4ヵ月にわたって出演し、大好評を博しました。昨年末の来日時、江古田キャンパスにピアノ公開講座の講師としてお招きした折、本学・福井直昭教授がお話を伺いました。
（2014年11月19日インタビュー）

日本の聴衆の素晴らしさ

福井　ルイサダさんが初めて日本にいらしたのは？

ルイサダ　1984年、山岡優子先生が主催する横浜でのフェスティヴァルのために来日したのが最初です。私にとっては革命的な出来事、私自身が劇的に変わるきっかけとなりました。そして日本の聴衆の優しさとマナーの良さ、フランスの文化に対するリスペクトに感銘を受けました。日本人の異文化に対する誠意とか敬意といったものは、当時も今も全く変わっていません。日本の留学生からも、他の文化を自分のものにしようという意欲を感じます。

福井　私がルイサダさんを知ったのは、中学生の頃、テレビでショパン国際ピアノ・コンクールの模様を見たのが最初でした。

ルイサダ　1985年のコンクールですね。テレビで大きく取り上げられたらしく、コンクールのあと来日した際、熱烈な歓迎を受けました。銀座を歩いていたら、「あっ、ルイサダだ！」と声を掛けられたり。こんなことは、他の国ではあり得ません。特にフランスでは絶対あり得ません（笑）。日本に来られたこと自体が嬉しかったですし、最初に来日したときからステージではとても自然に弾くことができました。私にとっての日本は、言うならば“幸せへの誘い”といったところでしょうか。

福井　今回、ピアノ公開講座を行った本学ベートーヴェンホールの印象は？

ルイサダ　ベートーヴェンホールには、とても素敵な雰囲気、ポジティブな雰囲気を感じます。ピアノの神様、というより音楽全般の神様と言うべき巨匠ウィルヘルム・ケンプが、約50年前、この素晴らしいホールでパイプオルガンを弾いたそうですね。今のドイツには、ケンプほどのピアニ

ストはいないでしょう。彼と同じ舞台に立つことができ、とても光栄に思います。江古田校舎の改築にあたっても、このホールだけは残されるということでほっとしました。

わが友ショパン

福井　今回の来日では、公開講座のほか、東京・紀尾井ホールをはじめ各地でリサイタルを行うということですね。

ルイサダ　今回はマスタークラスとリサイタル、両者が抱き合わせとなったツアーとなっています。ベースには、若い人たちに私の音楽、演奏に関わる秘訣、秘密を伝えたいという想いがあります。

福井　リサイタルのプログラムについてお聞かせください。何かテーマとか、こだわりはあるのでしょうか？

ルイサダ　紀尾井ホールのプログラムはハイドンとシューマンとショパンという構成で、とても美しいプログラムになっています。ハイドンの「変奏曲ヘ短調」は、悲しさと同時に希望を表現するものであり、後のシューベルトが予見されるくらい、ロマンチシズムの領域に近い作品です。シューマンの「フモレスケ」はずっと好きな曲で、27年ほど前に出した私のCDにも収録されています。シューマンの書いた言葉に「内なる声」というものがありますが、これは映画で言えばミュート、つまりセリフなど音がなくなった世界のこと。シューマンによる映画作風とも言えるでしょう。次のショパン「3つのマズルカ」、「ピアノ・ソナタ第3番」も大好きな曲。ショパンは、ずっと昔から私にとって近しい存在です。バッハ、モーツァルト、ショパンは常に私と共にあって、いつも練習しています。彼らこそ、まさに天才。どれだけチャレンジしても、汲み尽くすことのできない井戸のような存在です。彼らの作品と向き合うことで、私自身が成長できるような気がします。その作品群は、天からの贈り物。それを弾けること自体、どれほど幸せなことでしょうか。

▲ ジャン＝マルク・ルイサダ　ピアノ公開講座（2014年11月19日ベートーヴェンホール）

真っ直ぐ立つ木のように

福井　2014年5月、「ショパン：14のワルツ＆7つのマズルカ」というCDをリリースされました。ワルツもマズルカも以前録音されていますが、今回、再録された理由は？

ルイサダ　25年くらい前に一度録音していますが、今になって思うとあまり満足のゆくものではありませんでした。それを録り直すことができ、とても嬉しく思っています。

福井　以前のものは、どのあたりが不満なのでしょうか？

ルイサダ　まずはジャケット写真です（笑）。

福井　今回の写真は満足でしたか？（笑）

ルイサダ　気に入っています。それと、前回録音したときは私もまだ若く、珍しい版を使ってしまったんですね。それを当時は面白いと思って…。今回はクラシックな版を採用しました。さらに今回は福岡の素晴らしいホールで録音することができましたし、自身がピアニストでもある名プロデューサーのコート・ガーベン、日本人の優秀なレコーディングエンジニアなどスタッフにも恵まれ、出来には大変満足しています。

福井　ルイサダさんは2005年に『NHKスーパーピアノレッスン ショパン編』の講師もされました。ショパンに対する熱い想いをお聞かせください。

ルイサダ　私にとって、ショパンとモーツァルトの二人は特別です。ショパンをロマンティックに弾いてはいけません。古典的に弾かないと。ただし音色はロマンティックに。音は温かくシンプルに、しかし波打つような感じでクラシックに。ショパンの曲を演奏するにあたって、リストがこう言っています。「左手は絶対に

不動であるべきだ」と。例えるなら、真っ直ぐに立つ木の美しさのように。左手は風に揺れることなく、真っ直ぐに立つ木の幹のようにあるべきだ、と。そのイメージはすごく美しいもので、言うのは簡単ですが、行うのはとても難しいですね。

音楽の源への敬意

福井　ルイサダさんは、若者は昔のプレーヤーの演奏をもっと聴くべきだと発言されています。

ルイサダ　それは、常に言っています。世界中どこでも共通しているのは、若者が昔のピアニストをあまりに知らないということ。もちろん彼らには才能もあるし、アーティスティックな世界も持っている。でも、さらに飛躍するためには視野を広げたり視点を変えたりすることが必要なんです。そのためにも、音楽の源を探らないといけません。ピアニスト志望がフリードマンを知らない、ノヴァエスを知らないなんて、深刻なことです。

福井　今の学生は現代のピアニストすら、それほど聴いていないように思います。若者の意識を変えるには、どうしたら良いとお考えですか？

ルイサダ　学生たちに、自分自身の中での必然性を感じさせることが必要でしょう。押し付けることはできません。先生にできることと言えば、良い方向に導くことだけ。彼らの中に「好き」という意識があれば、必ず付いてくるはず。バッハを弾こうとするピアニストがフィッシャーを知らない、グールドしか知らない。彼らはフィッシャーを知るべきです。バロックやクラヴサンを弾くなら必ず知っておくべき世界なのです。私の師であるスコダにとってもフィッシャーは神様のような存在で、彼の口から繰り返しフィッシャーの話を聞かされたものです。要するに、先生はどうして自分が過去の演奏家たちを好きなのか、尊敬しているのか、ということを生徒に語り続けなければいけません。

福井　ルイサダさんはコルトー、フランソワ、ハイドシェックなどが名を連ねるフランス・ピアニズムの継承者と言われていますが、現在その流れについてはどう思われますか？

ルイサダ　今日、その伝統は絶えています。もちろん伝統は保つべきものですが、一方で、強いキャラクターやパーソナリティが登場すれば、それを打ち破ろうとする力が働くこともやむを得ません。そういう意味で、伝統が絶えていくということは、良いことでもあり、また悲しむべきことでもあります。私自身は過去の伝統を大事にしたいと思いますが、その理由は若い世代がそうした伝統がなかったかの如く振る舞うからです。彼らは知らない、だから逆に私は大事にする、つまりバランスを取っているということですね。上の世代は彼らに道筋をつけてあげないといけません。方向づけるための水路をつくってあげないと。

音楽で人生をアートする

福井　私は図書館長もしているので

▲ ピアノ公開講座の最後に、ショパン「ノクターン」を聴衆へのプレゼントとして演奏するルイサダ氏

すが、今年発表されたデータによると、日本では「読書時間ゼロ」の大学生が4割を超えたといいます。さらに、スマートフォンばかりでテレビすら見ない。映画をはじめ音楽以外にもさまざまなジャンルに精通しているルイサダさんは、この状況をどう思われますか？

ルイサダ　非常に悲しむべきことです。去年、イタリアのある大学のクラスで一人の学生がショパンのバラードを弾いたときのこと。話の流れから伝説的な映画女優のグレタ・ガルボ、マレーネ・ディートリッヒの名を口にしたのですが、驚くことに誰一人として彼女たちを知らないのです。日本でも若い世代の多くが名優・仲代達矢を知らない。トム・クルーズは知っているのに（笑）。繰り返しになりますが、昔の文化や偉大な先人たちについて伝えていくことが、私たちの世代の務めだと思います。あらゆる場面で幕をちょっとだけ上げて興味を喚起し、気づいてくれることに期待する。彼らが気づいたかどうかは、ピアノの音に出てくるのですぐ分かります。

福井　最後になりましたが、武蔵野でピアノを学ぶ学生たちにメッセージをお願いします。

ルイサダ　ただ指を動かすだけ、そんな音楽ではダメです。自分の人生、自分自身のために音楽をすることが何より大切です。あなたの人生そのものが新しい芸術になる、それが大事なのだと思います。自分の人生をアートするという意識を持って、音楽と対峙してください。演奏を聴いていて、「どうしてこの人はピアノを弾いているんだろう？」、そんなふうに思えることがあります。芸術的なラインを作ろうともせず、ただただ鍵盤を叩いているだけ、そんな人がいるのです。悲しいですよね。音楽を通して何かを再創造することができれば、それによって自由を勝ち得ることができるわけですから。自由、そう、自分を表現するという自由を。

福井　本日はありがとうございました。

（通訳：重松万里子）

▲本学 福井直昭教授と武蔵野音楽大学にて

音楽の万華鏡 30

音楽史に登場する王：太陽王ルイ14世

バロック時代の音楽史に登場する王には、プロイセンのフリードリヒ大王と並んで、今年没後300年を迎えるフランスのルイ14世（1638－1715）が挙げられる。幼少の頃から音楽を愛し、ギターを巧みに弾き、特に鍵盤楽器を好んだ。フリードリヒ大王がクヴァンツを宮廷音楽家としたように、ルイ14世もシャンボニエール、ダングルベール、フランソワ・クープランといった優れた作曲家、演奏家をそばに置いている。父王の死去に伴って即位したのはわずか4歳の時であり、母親が摂政となり、イタリア出身の宰相マザランが政治を行った。しかしマザランがイタリア・オペラをフランスに根付かせようとしたのに対して、ルイ14世は反発を覚えていた。小さいころから踊りを習い、自ら素晴らしい踊り手であった彼は、1650年ころからフランス独特のバレ・ド・クール（宮廷バレ）に大きく貢献していく。バレ・ド・クールとは、ぜいたくで豪華なスペクタクルであり、歌、器楽の演奏、舞踏、演劇といった全ての要素を含み、さらには莫大な費用をかけた大がかりな舞台装置や華やかな衣装を伴う総合的な催しであった。

この図は、14歳の王が企画して、1653年2月23日にプティ・ブルボン宮で上演された大がかりなバレ・ド・クール《夜のバレ》で、自ら太陽と音楽の神アポロンに扮したルイ14世である。詩人バンスラードの台本に、カンブフォールを中心とする3人の作曲家が曲を付けたこのバレは、45のアントレを含む4部構成で、夕方の6時から翌朝の6時まで繰り広げられた。このバレの最後を締め括る夜中の3時から夜明けにかけて行われた第4部では、眠りと夢の情景に続いて、ちょうど太陽が昇りかける頃、ルイ14世がアポロンに扮して踊りながら登場した。これは、王がまさに昇る太陽の象徴、世界を照らす絶対的な権威の象徴であることを示す演出であった。そして、その後1661年に宰相マザランが亡くなるとルイ14世は親政を開始、舞踏の王立アカデミーも創設する。そして、このバレの第2部で踊ったJ.B.リュリが宮廷音楽監督・作曲家に任命され、国王の信頼を得ていくのである。

▲《夜のバレ》（1653年）における“太陽王”としてのルイ14世

寺本まり子（本学音楽学教授）

海・外・音・楽・事・情

ドイツの教会音楽家

～音楽を通して社会に貢献できること～

●草谷麻子（オルガニスト）●

武蔵野音楽大学・大学院をへてドイツに渡ってさらなる研鑽を積み、現在ではベルリンを拠点にヨーロッパ各地で演奏活動をしているオルガニストの草谷麻子さん。ドイツ生活の長い草谷さんが、今回紹介してくださったのが「教会音楽家」という仕事。ご自身もベルリン芸術大学で、その資格を取得されています。日本では馴染みのない教会音楽家の役割や日々の活動などを通し、ドイツにおける音楽、音楽家の現状が垣間見えてきます。

草谷麻子 *Mako Kusagaya*

武蔵野音楽大学器楽学科（オルガン専攻）卒業。同大学院、シュトゥットガルト音楽大学大学院修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルリン芸術大学にて国家演奏家、教会音楽家の資格を取得。ラウバッハ国際オルガンコンクールファイナリスト。ドレスデンのヴェークシャイダー工房でオルガンビルダーの研修を、ベルリンのシャリテ大学病院で音楽療法の研修を受ける。日本コロムビアよりDVDを、聖マティアス教会及びバッハ教会にてCDを収録。現在、ベルリン在住。演奏活動を行うと共に、フェスティバルの審査員やワークショップ等にも招待を受ける。日本オルガニスト協会会員。

そっと置かれた花束

狭く、薄暗い螺旋階段を下りて鍵を開けたドアの向こうに、新聞紙に包まれた野花の花束が置かれていた。その新聞紙の余白には、「素敵な音楽をどうもありがとう」と記されていた。

今日は土曜日。私は、青空市の立つ広場の教会に、この週末のミサ（礼拝）代行のオルガン練習に来ていた。

ヨーロッパの大きな広場には、彫刻、噴水などと並んで、教会や市役所、学校など公共施設が建っていることが多い。その広場に、青空市が立つこともある。

教会には、たいてい専属のオルガニスト「教会音楽家」が勤めている。J.S.バッハや、A.ブルックナーなどがその前身である。大学や、教会音楽学校で勉強をした教会音楽家は、礼拝でのオルガン奏楽を始め、教会付属合唱団、教会付属ブラスバンドなどの指導に当たり、教会暦にそった礼拝での音楽や演奏会など、その教会内での音楽全般の責任を担っている。

昨今、教会不信、教会税逃れなどのために教会離れが増え、それにともない教会が経営困難に陥り教会音楽家を置いていないところもある。

その日は、専属オルガニストが教会外での仕事のため、ミサの代行を頼まれていた。

オルガンは、設置される空間、用途、予算などに合わせて一つ一つ作られる。そのため、それぞれの楽器は構造から音色まで多くの違いがある。オルガニストとしての経験から、そのオルガンを実際に見たり、試奏をしなくてもおおよその想像は付くが、私は代行依頼があると楽器と出会える良い機会なので、可能な限り練習時間をもらうことにしている。

▲ 聖マティアス教会コンサート（2011年）

練習を終え、教会後方上部に位置する、オルガン演奏台のある階から降りてきたところ、この花束が置いてあった。農家の人が売りに来ている花束を、教会が立つ広場の青空市で誰かが買ってそっと置いていったのだ。

教会音楽家への道

国立シュトゥットガルト音楽大学留学当初、正午直前にエプロン姿の買い物籠を下げた女性が教会の中に入って行くのを見かけ、私もその後を追って中に入った。ほの暗い教会の中にぽつぽつと人が座っているのを確認していると、正午ぴったりに天から降るようにオルガンの音が鳴り響いた。後から分かったことだが、青空市が立つ決まった曜日の正午に、そこの教会ではオルガン演奏会が無料で提供されていた。現在、ベルリン・カテドラル(ローマ・カトリック教会)では月曜日から金曜日まで毎回正午に、ベルリン大聖堂(プロテスタント)では毎週土曜日の夕方に、献金制のオルガン演奏会のサービスが行われている。

▲ ベルリン大聖堂正面

教会音楽家になるための教育は、和声、音楽史など一般音楽理論に加え、宗教学、賛美歌学など教会音楽専門理論と、主科として、オルガン、ピアノ、声楽、オーケストラ指揮、合唱指揮、スコアリーディング、通奏低音の7つのレッスンに加え、大学によってはチェンバロや、オーケストラ楽器である金管楽器や弦楽器などから、もう一つ楽器の選択を強いられるところもある。そのため、卒業後、たいていの人が教会音楽家になる傍ら、オーケストラの指揮者やピアニスト、オペラ歌手としても活動している。

▲ ベルリン大聖堂の歴史的に重要なザウアー・オルガン
草谷さんは、オルガン演奏が主となる Domvesper「大聖堂晩課」でも演奏する

オルガンの修復資金集め

国立ベルリン芸術大学で教会音楽を一緒に勉強した友人が、旧東ドイツの中部、ハルツ地方の大きな教会で教会音楽家として働いている。彼女の契約条件の一つとして、歴史的なオルガンの修復が挙げられている。資金集めから、オルガン・ビルダーの選択、設計・音響事務所との話し合いなど、全てが任されている。

ドイツでは、東西を分けていた壁崩壊直後、東ドイツの多くのオルガンが修復された。しかし、歴史的に重要でありながら、未だに修復されず演奏不能なままのオルガンも少なくない。

数年前、オルガン修復資金集めの一環として、彼女とのオルガン・ジョイント・コンサートの依頼を受けた。メディアの発達とともに、生の演奏会の在り方が問われる昨今、何か趣向を凝らした演奏会ができないか

▲ ベルリン芸術大学教会音楽科合唱指揮の試験のリハーサル（1998年）

と、「オルガン・ご希望演奏会(Orgel-Wunsch-Konzert)」と銘打って、チャリティー・コンサートを行うことになった。

演奏会当日のプログラムには、レストランのメニューのように、前菜、メイン、デザートの3種類が書かれている。前菜10曲、メイン20曲、デザート10曲の計40曲。曲名の横には、その曲の値段を提示。白のワイシャツに黒のズボン、黒の蝶ネクタイ姿の給仕役が注文用紙と大きな財布を片手に、教会の中に座った聴衆から曲の注文を受ける。聴衆はその曲の値段を支払い、希望の曲名が書かれた注文用紙が私達のところへ届けられ演奏をする。コースの合間には、教会の信徒有志が作ったフィンガーフードとドリンクをサービス。デザートの前にはオルガン演奏台に聴衆を招き、今演奏されているオルガンに、なぜ修復が必要なのか、歴史も含めたオルガンの説明も行われた。

パイプに送風される空気が不十分だったり、音の出ない鍵盤や、壊れて使用不可能なストップなど、楽器が演奏に支障をきたす状態だったので選曲に苦労をした。

約5時間にわたる演奏会だったが、大成功に終えることができた。

余談になるが、教会音楽家である彼女は、多額なオルガン修復資金集めのために、音楽活動だけにとらわれず、「オルガン・マラソン」も計画。教会をスタートとゴールにして、マラソンコースを警察・消防署の指導の下で決定。

走った距離に、1キロメーターの決められた料金を掛けた金額を支払う仕組み。子供たちは、親や親戚など、子供が選んだパートナーがその金額を支払う。

マラソン当日は、参加者の士気を高めるため、彼女が指導する教会付属ブラスバンドが沿道で応援演奏。やはりここでも音楽は欠かせなかった。

時代の移り変わりと音楽

一時期、ベルリン・ブランデンブルグ州でも、どのオペラハウスが閉鎖され、どのオーケストラが解散されるかと、新聞のトップニュースに挙げられることが続いた。技術の発達とともに多種多様な方法で、常時音楽を視聴することができるようになった今日、また時代とともに変遷する社会の中で、西洋音楽が生まれ育った土地ここドイツでも、生の演奏会の存続のために趣向の凝らされた活動が目に付くようになった。

将来の音楽家と聴衆を育てるために、オーケストラのメンバーが学校に出向いてワークショップを行ったり、音楽教室が放課後の学校に出向いてレッスンを行ったり、週末にはオペラハウスやコンサートホールなどで親子・家族のための演奏会などが積極的に行われている。

また、映画館で演奏会やオペラの模様を上映、PCで演奏会を同時鑑賞、博物館・美術館の空間を使っての演奏会、今までには考えられなかった楽器の組み合わせでの演奏会、ダンス、詩の朗読などとのコラボレーションなどは、すでに世界中で行われている。

経済不振とともに文化へのサポートが希薄になるとはいえ、コンサート情報誌に掲載された、連日どれに行こうかと迷うほどの演奏会の数に圧倒される。このことは、クラシック音楽離れといわれる半面、音楽が明らかに生活に密着していることをも示している。「なんでもあり」の今日、まずは「音楽」という、自分のしたいことがあることに誇りを持ち、その音楽を仕事としてなのか、それとも趣味、もしくはボランティアなどとして、どのような形で実現していくのか。そして、それをしている自分に満足でき、さらに一人の人間として音楽を通して何らかの形で社会に貢献できたら、きっと幸せに思えるであろう。

▲ ベルリン・カテドラル聖ヘトヴィヒ教会ポスター 草谷さんの出演案内（2014年）

▲ ベルリン日本人国際学校オルガン・ワークショップ（2012年）

REPORT ④

LOOK at TOMORROW
江古田新キャンパスプロジェクト

ありがとう！想い出の江古田キャンパス

いよいよ「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」も、本年4月より江古田校舎の解体工事が始まり、夏には新築工事に入るという本格的な段階を迎えました。そこで当欄ではこの春撮影した最新にして最後の旧江古田キャンパスの写真を掲載し、実に60年あまりにわたり多くの学生たちが巣立っていった旧校舎の想い出のアルバムとします。

なお、次号からは新キャンパスの実施設計図に基づいたCGによるパース（完成予想図）を掲載しながら、こちらも本格的な新キャンパスの各施設について紹介をしていきます。ご期待ください。

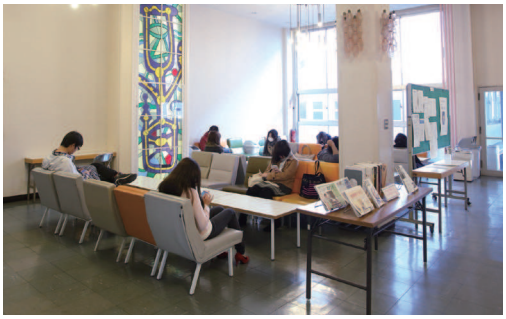
▲ モーツァルトホール

▲ 図書館

▲ 学科教室

▲ レッスン室

▲ 1号館正面玄関の2階から学生ホールへ続く廊下


▲ 学生ホール

▲ 食堂

▲ 1号館横の灯籠のある池

▲ 447室（旧モーツァルトホール）

▲ 桜の季節の校舎

▲ 藤棚と AV室外観

▲ ベートーヴェンホール エントランスのステンドグラス

▲ 合唱研究室（290室）

▲ スメタナロビー全景と創立者 福井直秋像

▲ 記念館外観

▲ 図書館外壁のモザイクとベートーヴェン像

音楽教室オペラ「ふしぎな魔法の笛」上演

武蔵野音楽大学附属江古田音楽教室のオペラ公演が、去る1月11日、12日の両日、ベートーヴェンホールにおいて4回にわたり開催されました。オペラのキャストや合唱はもちろん、オーケストラや練習ピアニストなどを、小学生から高校生までの児童や生徒が務めるユニークな催しとして、これまで多方面から高い評価を得てきました。

21回を迎えたこの度は、音楽教室開設50周年を記念して「ふしぎな魔法の笛」（原曲：モーツァルト《魔笛》）を上演。本学の大先輩、我が国オペラ界のパイオニアの一人であった故大谷冽子女史の遺した演出プランに従い、指揮：前田淳氏、演出補：山内みどり・大川典子両氏以下、子どもの指導に経験豊かなスタッフのもと、生徒たちは躍動感あふれるメルヘンチックな舞台を見事に演じきりました。

本公演での熱演は大きな感動を呼び、華やかなカーテンコールが何度となく繰り返され、満員の観客から盛大な拍手と声援が送られました。子どもたち一人ひとりにとって、オペラという総合芸術を通してモーツァルトの音楽の神髄に触れることができた、何ものにも代え難い素晴らしい体験となりました。

笑顔あふれた三幼稚園発表会

武蔵野音楽大学第一、第二、武蔵野の三幼稚園では、それぞれ2月から3月にかけて、ひなまつり音楽会や表現発表桃の会を行いました。

▲ ひなまつり音楽会（第二幼稚園）

園児たちは、大学のベートーヴェンホールや幼稚園のホールで、1年間取り組んできたバイオリンや木琴などの合奏、合唱や劇を披露。最初は少し緊張気味でしたが、日頃の練習の成果を徐々に発揮し、会の終わりには達成感に溢れたはじけるような笑顔を見せてくれました。元気いっぱいな演奏に、保護者をはじめ、たくさんのお客様から温かい拍手をいただきました。

▲ 表現発表桃の会（武蔵野幼稚園）

▲ ひなまつり音楽会（第一幼稚園）

MUSASHINO 掲示板

平成26年度音楽大学卒業生演奏会（桃華楽堂）

平成27年3月18日（水）、皇居内にある音楽ホール桃華楽堂で、在京5音楽大学の代表による「音楽大学卒業生演奏会」が、皇后陛下ご臨席のもと開催されました。本学からは、廣瀬拓也（オーボエ独奏）／野村なつき（ピアノ伴奏）が出演し、フンメル：序奏、主題と変奏 ヘ短調 Op.102を披露させていただきました。

平成26年度クロイツァー賞受賞者

わが国のピアノ音楽発展に寄与したレオニード・クロイツァー教授の名を冠した「クロイツァー賞」。教授とゆかりが深かった東京藝術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院から、毎年特に優れた成績を修めた学生が選出されます。平成26年度、本学からは奥村奈々さんが選ばれました。プログラムは、シマノフスキ：変奏曲 変ロ短調 Op.3、デュティユー：ピアノソナタ。記念演奏会は7月8日（水）19:00 東京オペラシティ リサイタルホールで開催されます。

着任外国人教授紹介（平成27年度前期）

ケマル・ゲキチ *Kemal Gekić*（ピアノ／クロアチア）

1962年クロアチア生まれ。旧ユーゴのノヴィサッド音楽院で学ぶ。史上最高得点でディプロマを取得。1981年国際リスト・ピアノコンクールで受賞。1985年のショパン国際コンクールでは、聴衆の圧倒的支持を得て名誉賞受賞。その後世界各地で活発な演奏活動を展開し大好評を博す。幅広いレパートリーでCD録音も積極的に行い、特にリストの演奏では第一人者として不動の地位を築いている。フロリダ国際大学教授。

レイ・E. クレーマー *Ray E. Cramer*（ウィンドアンサンブル指揮／アメリカ）

アメリカで高く評価されるインディアナ大学音楽学部で、2005年まで吹奏楽学科主任教授並びにバンドディレクターとして活躍し、また2009年まで著名なミッドウェスト・クリニック会長の要職も務めた。これまで全米吹奏楽指導者協会会長をはじめ数多くの吹奏楽協会の要職を歴任する他、インディアナ大学最優秀教授賞、Phi Beta Mu 国際優秀賞等多くの賞を受賞。2012年には権威ある National Band Association Hall of Fame of Distinguished Conductors（吹奏楽の優れた指揮者の栄誉殿堂）に選ばれ、全米、日本等で客員指揮者、指導者、審査員として広く活躍している。武蔵野音楽大学名誉教授。

オーティス・マーフィー *Otis Murphy*（サクソフォーン／アメリカ）

マーフィー教授の略歴は、右記「表紙の顔」をご覧ください。

哀悼

武蔵野音楽大学の客員教授、クルト・グントナー教授、エレナ・オブラスツォワ教授が逝去されました。長年にわたる本学への多大なご貢献に感謝しご冥福をお祈り申し上げます。

クルト・グントナー教授

2015年1月9日　ドイツにてご逝去　享年75歳

バイエルン国立歌劇場管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー、バイロイト祝祭管弦楽団のコンサートマスター、アンスバッハのバッハ週間のコンサートマスター及びソリストを務めるなど、国際的なヴァイオリニストとして活躍されました。その傍ら2004年まで30年間にわたりミュンヘン音楽大学で教授を務められ、また著名なヘンレ社の楽譜校訂者でもありました。

武蔵野音楽大学へは客員教授として2005年から着任、レッスンと室内楽の指導に当たられました。特に2008年、武蔵野音楽大学室内管弦楽団の結成に尽力され、指揮者として豊富な経験をもとに、新たな“武蔵野サウンド”を作り上げることに情熱を注がれました。

グントナー教授の誠実なお人柄と温容な風貌が偲ばれます。

エレナ・オブラスツォワ教授

2015年1月12日　ドイツにてご逝去　享年75歳

ロシアの世界的メゾ・ソプラノ歌手。1963年、ボリショイ歌劇場でオペラデビューを果たし、以来ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場など世界各国の主要歌劇場に出演し、名実ともに世界を代表するオペラ歌手として君臨し続けていました。

武蔵野音楽大学へは1993年からほぼ毎年、客員教授として来日し学生、教員の指導に当たり、歌に対する情熱と優しいお人柄、チャーミングな笑顔で周囲から慕われていました。また、来日の度に開催された本学でのリサイタルでは、毎回趣向の異なるプログラムで多くのファンを魅了しました。

オブラスツォワ教授の武蔵野に対するご功績、また素晴らしい歌声を決して忘れることはないでしょう。

●表紙の顔

オーティス・マーフィー教授

オーティス・マーフィー氏は、2006年、2011年に武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルのソリストとして共演しています。

氏は、インディアナ大学にてユージン・ルソーに師事し首席で卒業後、ジョージア大学、さらにジャン＝イヴ・フルモーのもとセルジー・ポントワーズ国立音楽院で研鑽を積みました。国際H. ヘルマンス木管楽器コンクール1位、A. サックス国際サクソフォーンコンクール2位、J=M. ロンデックス国際サクソフォーンコンクール3位受賞。S & R財団ワシントン賞及び特別大使賞受賞など、コンクール等に多数入賞しています。

28才の若さで母校インディアナ大学のサクソフォーン講師となり、現在は教授として後進の指導に当たり、プロのコンサートバンドプレーヤーや大学講師として活躍する優秀な学生を多数輩出しています。

指導の傍ら、ソリスト、クリニシャンとして、これまで武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル、東京交響楽団、ヤマハ吹奏楽団、スコットランド室内管弦楽団、インディアナポリス交響楽団、米国海軍バンドなどと共演。さらに世界各国の名門音楽大学や音楽祭に招かれるなど国際的に活躍しています。2001年以降は毎年来日、浜松国際管楽器アカデミーの講師、ヤマハのサクソフォーン開発コンサルタントを務めています。また、ソロCDのリリースをはじめ多数のレコーディングを活発に行っています。

武蔵野音楽大学には、本年4月から2ヵ月間客員教授として着任。

※6月19日、本学でリサイタルを開催。
（詳細は本誌 P.14 をご覧ください）

編集後記

新キャンパス建設が動きだしました。旧校舎がなくなる寂しさに浸っている折に飛び込んできたのが、グントナー、オブラスツォワ、両先生の訃報。かつての江古田校舎の姿と共に、本学に於けるお二人の功績をいつまでも心にとどめておきたいものです（編）。

武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金　ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、江古田新キャンパス建設基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。　学校法人　武蔵野音楽学園

※ご芳名（五十音順）は、平成26年11月1日から平成27年2月5日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

【同窓生】荒木 涉様　上綱敦子様　風間千壽子様　加藤玲子様　金津るみ様　國枝愛子様　國枝純一様　濵口アケミ様　浜口 恵様　堀内 操様　水上和子様　八木紀子様　若井和子様　台湾國際沛思文教基金會様　同窓会宮城県支部一同様

【在学生・同ご父母】泉 茂美様　栢菅憲忠様　河野佳一郎様　佐藤由喜子様　山 明子様

【役員・教職員・一般・他】宇野慶子様　大熊紫香様　甲斐真紀子様　加藤高徳様　金井和美様　川津英秀様　菊池初美様　菊池英美様　北島政人様　コッホ中村幸子様　坂下 寛様　坂下裕子様　高久 進様　武末さやか様　百橋真智子様　長尾立矢様　福井 修様　福井直敬様　ホラーク道子様　前田 淳様　町田雅彦様　三村隆文様　宮﨑 梓様　森 恵様　吉岡千賀子様

（他に匿名を希望される方16名）

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

（順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの）

●埼玉県「平成26年度下總皖一音楽賞（音楽文化発信部門）」受賞
佐藤美枝子（本学准教授　昭和63年大学卒声楽専攻）

●平成27年度　五島記念文化賞　オペラ部門　オペラ新人賞（スタッフ部門）をコレペティトゥアで受賞
荒井美礼（平成17年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程修了）

●第47回　市民文化奨励賞（北九州市）受賞
日野真一郎（平成17年大学卒声楽専攻　本大学院修士課程修了）

●2015年　小澤征爾音楽塾オーケストラオーディションにティンパニ・打楽器奏者として合格、セイジ・オザワ　松本フェスティバルに出演
片山陽平（平成26年大学卒ティンパニ専攻　本別科在学）

●第20回　KOBE国際音楽コンクール　C部門　打楽器　優秀賞、神戸市民文化振興財団賞受賞　松岩沙季（大学3年次在学マリンバ専攻）、●第5回　ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan　全国大会　自由曲コース　大学・一般A1部門　金賞、審査員特別賞受賞　橋本あすか（大学4年次在学ピアノ専攻）、●第8回　ベーテン音楽コンクール　全国大会　バロックコース　大学・一般部門　第1位入賞　秋山美穂子（平成元年大学卒ピアノ専攻）、●第8回　八潮市新人オーディション　優秀賞受賞　山本己太郎（大学3年次在学ピアノ専攻）、●第24回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　声楽部門　大学女子の部　第3位入賞（1、2位なし）　櫻井陽香（大学3年次在学声楽専攻）、●第6回東京ピアノコンクール　2台ピアノ部門　第2位入賞（1位なし）　岡田彩音（本高校3年次在学ピアノ専攻）、津幡彩音（本高校3年次在学ピアノ専攻）、●第17回　“長江杯”国際音楽コンクール　管楽器部門　高校の部　第3位入賞　青木彩香（本高校3年次在学フルート専攻）

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

平成27年度 夏期講習会のお知らせ

平成27年度の武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学附属高等学校の夏期講習会（音楽大学受験講習会、高校音楽科受験講習会、社会人のための夏期研修講座、免許法認定講習）を、下記のとおり実施します。

講座名	会　場
大学受験講習会 1期：7/28 ～ 7/31　2期：8/2 ～ 8/5　3期：8/25 ～ 8/28	入間キャンパス
高校音楽科受験講習会 1期：7/28 ～ 7/30　2期：8/25 ～ 8/27	
社会人のための夏期研修講座　7/31 ～ 8/2	
免許法認定講習　7/25 ～ 8/5　※教員免許状更新講習とは異なります	

※実施日程、会場が昨年と変更となっている講習会があります。詳細は要項でご確認ください。
◎講習会要項は6月上旬発行の予定。要項の請求は、大学ウェブサイト、または入学センターよりお申し込みください。（要項は無料、郵送料は学園が負担します）
大学ウェブサイト　http://www.musashino-music.ac.jp/
入学センター　TEL.04-2932-2111（代表）
TEL.04-2936-9844（入学センター）

平成27年度 教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学では、平成27年度も教員免許状更新講習を開講します（現在認可申請中）。本学では、小学校、中学校および高等学校の、音楽を中心とする教員を対象に、必修領域「教育事情」12時間と選択領域「教科指導等」18時間、合計30時間を開講します。

講習期間	会　場
①必修領域（12時間）7/20・21 の2日間 ②選択領域（18時間）7/22～24 の3日間	入間キャンパス

◎要項は4月中旬発行の予定。要項の請求は、広報課（TEL.04-2936-9737）、または大学ウェブサイトよりお申し込みください。（要項は無料、郵送料は学園が負担します）
大学ウェブサイト　http://www.musashino-music.ac.jp/

平成27年度 4月～7月 演奏会のお知らせ

武蔵野音楽大学音楽学部新人演奏会 ～平成26年度卒業生による～
4月21日(火) 19：00 トッパンホール ￥1,500〈全席自由〉

武蔵野音楽大学大学院修士課程在学生によるコンサート
4月27日(月) 18：00 バッハザール（入間） 入場無料〈全席自由・整理券不要〉

武蔵野音楽大学大学院修士課程新人演奏会 ～平成26年度修了生による～
5月18日(月) 19：00 トッパンホール ￥1,500〈全席自由〉

ニュー・ストリーム・コンサート26 ～ヴィルトゥオーソ学科演奏会～
6月17日(水) 18：00 バッハザール（入間） 入場無料〈全席自由・要入場整理券〉

オーティス・マーフィー サクソフォーン・リサイタル
6月19日(金) 18：00 バッハザール（入間） ￥1,000〈全席自由〉

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会
指揮＝レイ・E. クレーマー
ピアノ独奏＝ケマル・ゲキチ
曲目＝G. ガーシュウィン：ラプソディ・イン・ブルー
2015年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲 より 他
7月11日(土) 14：00 酒田市民会館「希望ホール」大ホール（山形県）
一般￥1,500/小・中・高 ￥1,000〈全席自由〉
7月12日(日) 16：00 やまぎんホール（山形県県民会館）大ホール（山形県）
一般￥1,500/ 小・中・高 ￥1,000〈全席自由〉
7月15日(水) 18：30 東京芸術劇場 コンサートホール ￥1,500〈全席指定〉

お問合せ ●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部 TEL.04-2932-3108
※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※チケットは武蔵野音楽大学ウェブサイト http://www.musashino-music.ac.jp/ でも予約ができます。

平成27年度 武蔵野音楽大学・附属高等学校 オープンキャンパス

平成27年度武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 オープンキャンパスを、下記のとおり開催します。これは、音楽大学・高等学校音楽科へ進学を希望する小学生・中学生・高校生と、その指導者、保護者の方々へ、武蔵野の教育理念や教育内容を理解していただくために開催するものです。ぜひご参加ください。

開催日	会 場
2015年6月14日(日)	入間キャンパス
2015年9月13日(日)	
2016年3月13日(日)	

【対 象】音楽大学・高等学校音楽科に進学を希望している、小学生・中学生・高校生の皆さん、ならびに指導者の方・保護者の方・ご家族の方。
【参 加 費】参加費は無料です。
（個別相談、ワンポイント・レッスンを含む）
【お 申 込 み】大学ウェブサイト
http://www.musashino-music.ac.jp/
よりお申し込みください。
【お 問 合 せ】入学センター
〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111（代表）
TEL.04-2936-9844（入学センター）

平成27年度 武蔵野音楽大学・附属高等学校 学校説明会

本学では、武蔵野の教育理念や教育内容を理解していただくために、音楽大学・高等学校音楽科に進学を希望している小学生・中学生・高校生とその指導者、保護者の方々を対象に武蔵野音楽大学・同附属高等学校の学校説明会を全国各地で開催しています。平成27年度は下記のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。

日 程	会 場
5月10日(日)	宮城県仙台市 「常盤木学園」※大学の学校説明会のみ実施
5月31日(日)	福島県郡山市 「ヤマハミュージックリテイリング郡山店」
5月31日(日)	香川県高松市 「アルファあなぶきホール（香川県県民ホール）」
6月21日(日)	北海道札幌市 「センチュリーロイヤルホテル」 「ヤマハミュージックリテイリング 札幌店ヤマハ札幌センター」
6月21日(日)	富山県高岡市 「高岡市生涯学習センター（ウイング・ウイング高岡内）」
6月28日(日)	愛知県名古屋市 「ヤマハミュージックリテイリング名古屋店」
6月28日(日)	福岡県福岡市 「アクロス福岡」

【対 象】音楽大学・高等学校音楽科に進学を希望している、小学生・中学生・高校生の皆さん、ならびに指導者の方・保護者の方・ご家族の方。
【内容（予定）】●ガイダンス（大学・高等学校の紹介、入学試験・進路等について）●ミニ・コンサート（本学学生または本学教員によるコンサート）●個別相談（申し込み時の希望者のみ）●ワンポイント・レッスン（申し込み時の希望者のみ、約20分間の個人レッスン）
※レッスンは開催地により開講する楽器が異なります。
詳細はウェブサイトでご確認ください。
※昼食は各自ご準備ください。
【参 加 費】参加費は無料です。
（個別相談、ワンポイント・レッスンを含む）
【お 申 込 み】大学ウェブサイト
http://www.musashino-music.ac.jp/
よりお申し込みください。
【お 問 合 せ】入学センター
〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111（代表）
TEL.04-2936-9844（入学センター）

武蔵野音楽大学楽器博物館だより――

リュート

G. ライター作　ドイツ　全長71cm

フェルメールの「リュートを調弦する女」、カラヴァッジオの「リュートを弾く若者」など、西洋美術ではリュートを題材にした絵画は少なくない。リュートは15～17世紀を中心にヨーロッパで広く普及した楽器で、貴族から庶民まで階層を超えて流行した。

リュートは、アラブのウードという楽器がヨーロッパに伝えられ誕生した。711年、ウマイヤ王朝がイベリア半島に侵攻し、その後15世紀末までスペインはイスラム帝国に統治されるが、この東進したイスラム教徒(ムーア人)によりウードが西欧に伝播した。リュートは13世紀以降にヨーロッパ諸国へ広がり、16世紀ころには基本的な形態と指先で弾奏する奏法が確立された。バロック時代には独奏楽器としても人気を博し、J.S.バッハもソロのための楽曲を残している。しかし10コースを超える弦がもたらす演奏の困難さやあまりにも繊細な音質などから、チェンバロの隆盛やギターの普及などに押され、その後急速に人気が衰えてしまった。

「80歳のリュート奏者は60年間を調弦に費やしたことになる」…1713年、ドイツの音楽理論家マッテゾンは＜オルケストラ新設＞でこのように記したが、現代の演奏会でも、演奏される作品よりも曲間の調弦の方が長いという場面にしばしば出会う。リュートは、その祖先の地が大木の育たない風土であったことを引き継ぎ、胴体が薄い木材の寄せ木細工で仕上げられ、表板の厚さも2mmを超えることがない。その華奢さゆえに弦は常に調弦を必要とする。しかし、その緻密な作りが織りなす響きは優美で格調高く、現在でもリュートを好む音楽愛好家は絶えることがない。

（武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵）

大学機能の一時移転のお知らせ

武蔵野音楽大学は、現在進行中の「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」に伴う新築工事のために、平成27年4月1日から平成29年3月までの2年間、大学の機能を入間キャンパスに移転いたします。期間中は何かとご迷惑、ご不便をおかけいたしますが、ご理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。

✣目 次✣

平成27年度を迎えるにあたって　福井直敬 …… 1
音楽で自由を獲得しよう　ジャン＝マルク･ルイサダ …… 2
音楽の万華鏡 …… 5
音楽史に登場する王:太陽王ルイ14世　寺本まり子
海外音楽事情 …… 6
ドイツの教会音楽家～音楽を通して社会に貢献できること～　草谷麻子
江古田新キャンパスプロジェクト REPORT④ …… 9
ありがとう！ 想い出の江古田キャンパス
MUSASHINO NEWS …… 11
✣音楽教室オペラ「ふしぎな魔法の笛」上演
✣笑顔あふれた三幼稚園発表会
✣MUSASHINO 掲示板　✣着任外国人教授紹介　✣哀悼
✣武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金　ご寄附をいただいた方々
✣栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
✣平成27年度 夏期講習会のお知らせ
✣平成27年度 教員免許状更新講習のお知らせ
✣平成27年度 4月～7月　演奏会のお知らせ
✣平成27年度 武蔵野音楽大学･附属高等学校 オープンキャンパス
✣平成27年度 武蔵野音楽大学･附属高等学校 学校説明会

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程･博士後期課程
武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学別科
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田･入間･多摩

✣発　行✣
学校法人 武蔵野音楽学園

入間キャンパス　●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111（代表）
江古田キャンパス　●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121（代表）
パルナソス多摩　●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711（代表）

http://www.musashino-music.ac.jp/
2015年4月1日発行　通巻第113号